

陳 述 書

奈良地方裁判所 御中

平成30年4月26日

(住 所)

(氏 名) Y. T. ⑩

1 私は、戦後の昭和21年7月20日に生まれました。

仕事は、税務署の技官を勤め上げた後、2005年に退職し、2013年からは、奈良にある「市民放射能測定所」で測定を担当しております。

2 私とNHKテレビとの関わりですが、私が小さい頃には、一般家庭にテレビはほとんどありませんでした。

私の家にもテレビはなく、子どもの楽しみは紙芝居でした。午後3時くらいになると紙芝居が辻々にあらわれました。5円、10円出して、駄菓子を買って、紙芝居を見るのです。

また、ラジオも聞いていました。NHKのラジオ第一です。土曜日の夜7時半から「20の扉」、「思い出のメロディー」「とんち教室」と続きます。私は、いつも途中で眠くなって、「とんち教室」の出演者の紹介を聞いているあたりで寝てしまい、夜9時まで聞くことはないのです。

そういう時代ですから、テレビが登場したときには、凄いものだと思いました。

テレビは高級品でした。いわゆる3種の神器のうち、最初にやってきたのが冷蔵庫、次が洗濯機です。脱水機は手回しでしたので、よく手伝わされました。

それから一年半くらい後のボーナスのころに、父がテレビを買って来ました。私が小学校6年生くらいだったと思います。他の家庭より少し早かったかもしれません。14インチ。嬉しかったですね。

NHKだけではなく、民法も最初から放映していました。

今と全く違うのは、夜11時から2時まで、放送のない時間がありました。

その間は、終わってしばらく、テストパターンという、NHKや日テレなど、テレビ局の独特のパターンがずっと放送されていたのです。今のうちに、24時間放送というものはありませんでした。

午前2、3時間放送して、夕方まで休んで、それから夜11時まで5、6時間放送する、というような形でした。

今は、主としてニュースを見ています。朝6時半から8時まで、時計の代わりにもなります。9時くらいには消してしまいます。夕方は、夜7時からのニュースを見えています。「クローズアップ現代」は、国谷裕子キャスターが出ていたころは見えていたのですが、国谷さんが突然降板されてからはあまり見なくなりました。

私はもともと理学部の出身で、自然科学にも興味がありますので、NHKスペシャルは新聞のテレビ欄でチェックして、よく視聴しています。

- 3 受信料について、NHKには、プロバイダーのKCNを通じて料金を支払っていますが、地上波とBSとを合わせると、月額1910円（内税）を払っています。

しかしながら、そもそもの契約書を交わした覚えはありません。契約書も交わしていないのに、私もNHKとの受信契約なるものを結ばされているのでしょうか。

昨年12月の最高裁判決を読みましたが、受信契約を結びたくないという人には、裁判を起こして契約を結べというくだりがあったとのことでした。

これはやはり、契約という、当事者間での約束事が前提となっているということだと思います。前提としてまず、契約をしているのかどうか、はっきりさせるべきです。

私はこの裁判で、契約していないと主張するつもりはありませんが、前提として、契約書を見せて欲しいと思っています。

今回の裁判でも、NHKの代理人は積極的に発言しませんが、現在のNHKの曖昧な契約形態、何となく契約したことにして、何となく受信料を徴収しているという現状を維持したいという意図があるのではないのでしょうか。

- 4 私は、NHKの他にも、時折、WOWOWと契約していますが、その受信料は月額2484円です。

WOWOWの受信料は、当然のことながら、WOWOWの提供する番組を視聴することの対価です。NHKの受信料は、WOWOWのそれとどう違うのか、納得いく説明を聞きたいです。

受信料の沿革も不明ですし、高いと思います。

これは、先ほど述べたことと関係しますが、テレビは、奢侈品だったと思います。

政府が公式にそう言っているのかどうかは知りませんが、政府は、テレビは奢侈品、つまり、ぜいたく品としての性格があると考えているのではないのでしょうか。

テレビには、物品税がかけられていました。物品税というのは、消費税導入とともに廃止されましたが、要するに、ぜいたく品にかかる税金ということです。当時は、野球の観戦チケット、映画のチケットにも物品税がかけられていました。野球観戦や映画鑑賞などはみな、贅沢だと思われていたわけです。

テレビも奢侈品目でした。テレビを置ける家庭には担税能力があるだろうという

ことで、税がかけられたわけです。

NHKの受信料も、その中身がはっきりわからないし、受信料の性格については「特殊負担金」ということにされて、では「特殊」とは何ぞや？との問いには答えてもらえないようですが、受診料のそもそもの成り立ちは、物品税と関係があるのではないのでしょうか。つまり、NHKを視聴するのはぜいたくな行為だからというわけで、受診料が高く設定されているのではないのでしょうか。

これは、考え直すべき時期が来ていると思います。

5 私は、メディアについては、次の2つの点に着目しています。

第1は、そのメディアが原子力政策に対して、どのような視点をもっているかということ。第2は、そのメディアが、権力に対してへつらった態度をとっていないかということです。

まず第2の、権力への「へつらい」についてお話しします。

NHKには、アナウンサーの話法がしっかりしているとか、広告が入らないという良い点もありますが、権力にへつらっている点は非常に良くありません。

NHKには、6000億円くらいの莫大な歳入があります。人口12万人の生駒市が、特別会計を合わせても600億円に過ぎないことを考えると、単純に考えれば、120万人の人口を有する地方自治体に相当する財政規模を有するわけです。

それだけの巨大な企業体であるのに、権力にこびている。

今の安倍首相は、立法と行政の区別がついていません。

首相は、立法府ではお客の立場、その首相が国会でヤジを飛ばすなどということはありません。立法も行政もごちゃごちゃにしています。安倍首相の、公私の区別がついていない最たる例だと思います。

また、安倍首相の下、NHKの会長におかしな人になってしまいました。靱井さんです。靱井さんも、公私のけじめを付けることができない人でした。

6 NHKの放送で特に気に入らないのが、皇室の取り扱いです。建前としては、天皇も人間であり、人間は皆平等であるはずなのに、20年くらい前のことだったかと思いますが、皇族の赤ちゃんに「様」をつけたことには驚きました。

私は、以前、名古屋に単身赴任しておりましたが、当時、「愛・地球博」という万博がありました。

万博では「オランダデー」、「イギリスデー」があり、各国の皇室や王族が来場されていたのです。

「オランダデー」の日のことですが、私が家で食器を洗っていましたら、後ろからNHKのテレビが、「オランダデー」を報道するテレビ音声が聞こえてきました。

すると、あろうことか「オランダの皇太子が出席します。」などというのです。私

は、洗っている食器を落としそうになるほどビックリしました。

日本の皇室を報道する際には、「宮様、宮様」と聞き苦しいほどの敬称を連呼するのに、オランダの皇太子は呼び捨てで敬称すらつけません。そのあまりのギャップに聞き間違いかと思い、それからは注意して聞いていましたが、「イギリスデー」の際には、やはり「皇太子が」などと呼称していました。

NHKの連中は、敬意があって敬称を使っているのではなく、誰かに言わされているというように思います。

日本の王室には聞き苦しいほどの敬語をつけているのに対し、外国の王室に対しては非礼な言葉遣いをしています。

これは今も続いており、今年の4月25日のことですが、英国王室に新しい赤ちゃんが生まれたというニュースがありました。が、そこでもやはり、「様」という敬称を付けていませんでした。

昔の「気を付け！天皇陛下様の！」というような、日本の皇室のみに対する過剰な敬意を引きずっているのではないのでしょうか。

7 続いて、第1の原発に対することについてお話しします。

私は、原発に関心があります。奈良市学園前に、民間の測定所である市民放射能測定所があります。私は、2013年の設立当初からかかわっており、毎週火曜日には測定を担当しています。

放射性物質による汚染は実際にありますが、特に2011年の玄米、根菜類、ブドウ、ストロベリーはセシウム汚染がひどいものでした。関東の土壌にはかなり含まれています。その土壌が風に巻き上げられて塵埃になります。その灰は消化管から体内に入って、内部被ばくをします。灰は関東から静岡まで飛んできていますから、本当に恐ろしい話です。

政府の御用放送であるNHKの放送は、原子力関係については特に嘘が多いです。「基準」なるものを出してきますが、国際基準といえども、国際的に粉飾がなされている。消費者、一般市民は孤立無援状態です。

今の国際情勢はいわば力任せの情勢で、歪んでいます。そして、その歪みが食品の規制基準になってしまっています。飲料水の規制値も1リットルあたり10ベクレルで、これとて毎日飲めば危ないのです。

民放やその他のマスメディアも含めて、「錦の御旗」にしたがっていけば大丈夫という前提です。ところが、国際機関であっても信用できるところは少ないですし、研究者のレベルでも、ありえないような事案があります。

特に、核保有国ではそれが顕著です。核兵器の関係で、核兵器を持っている側にとって、不都合な真実を覆い隠すような動きがあります。

市民放射能測定所には、入江先生という小児科のお医者さんがいらっしゃいます。

入江先生は、反原発の意識をお持ちです。その他にも、被災地からお子さんをつれて逃げてこられた方々がスタッフになっています。

このような実情を報道して欲しいのです。もっとNHKに頑張ってもらいたいのです。

8 まともな経済学者に言わせれば、原発は採算が合わないとはっきり言っています。

ところが、今日の新聞にも、日本政府が原発をトルコとイギリスに輸出しようとしているという記事が出ている。しかも、政府保証までつけてのことです。何兆円と言うプロジェクトになりますが、事故が起きた時には目も当てられません。

一般の場合であれば、研究所の実証プラントである程度の成果が出てから、それから初めて、商業ベースのプラントにうつせるのです。当然、その時にはコスト計算もできています。

ところが、原発産業に関しては、正力松太郎が、中曽根の支援を受けて、闇雲に導入したという経緯があります。

原子力発電所そのものが、プルトニウムを作るための装置になっています。そして発電は副産物。日本はすでに、全体で50トン近いプルトニウムを持っています。プルトニウム8キロで原爆一つできるとすると、日本には大変な数の原爆を作る能力があることになる。一体、日本政府は何を考えているのか。原爆を作るプロジェクトが背景にあるはずです。

目的はプルトニウムなのに、核の平和利用だ、夢のエネルギーだなどと言っていました。そこから嘘が始まっていたのです。発電装置は原子炉とは別のところにあるので、技術的には完全な欺瞞です。そこをマスコミはなかなか報道しません。

いままでマスメディアがそういうことを言ったことは、ありません。

9 こういう知識は、勉強しないとわかりません。NHKをはじめとする日本のマスメディアは、真実性を欠く、真実を追求する能力を欠いていると言わないといけません。

放射性物質は、外に漏れだしたらマズい毒物。何で規制するかと言うと、毒を出しているからです。ところが、兵器産業に気兼ねをして、緩いものになっている。

毒物を作っているという、本音の部分が報道されることはありません。

廃棄物の処理は50年60年先の将来に問題になるのに、まるで見通しが立っていない。

会計学上の問題としては、原発の廃棄物を「資産」の項目にあげている。再生可能だというわけですが、それは欺瞞です。原発の廃棄物を再利用するというサイクルはまわっていない。実際にはそのようなサイクルは不可能で、あてもないのに資産に入れている。とてつもない不都合が生じている。東芝がとてつもない暖簾量を払ってアメリカの原子力産業を買って、とんでもないことになったのもそのため

す。

本来、産業というものは、だんだんとコストが明確になる、という常道のコースを歩むはずなのに、原子力産業に関しては、バックヤードコスト、エンドコスト、後付けのコストが膨らんでくるのです。普通は、後になるほどコスト計算は安くなり、明確になるはずなのに、逆に、後になるほど高くなり、不明確になっています。

こんなことは、採算を度外視した兵器産業でなければ成り立ちません。

こういう、根本的なところを、NHKは報道しません。

10 原子力について、正しく報道されることは、私たちの生活や、生命に直接かわることです。受信料を受け取って、それによって成り立っているにもかかわらず、権力にへつらって、原子力について正しく報道しないNHKには、耐え難い苦痛を感じており、大変な損害を受けています。

以上